

9月定例会を 振り返って

会派の意見



市民クラブ

救護施設「誠和園」の
サービス水準確保を
厳しく要望！

近藤強議員は、安倍政権は地

方創生において各自自治体に「知恵を出せば金を出す」とおおってきだが、来年度予算が当初予想を大きく下回ることが判明し、地方創生がいかにまやかしかであったかが明らかになったことから、本市への影響をただした。

竹内千賀子議員は、今年は、部落差別の解消が国民的課題であり国の責務であることを明記した同対策審議会答申が出されて50年の節目に当たることから、達成された成果と残された課題の総括、また、新たな課題や部落問題解決に向けた行政としての姿勢について、今日的な見解をただした。

岡崎豊議員は、津波避難困難区域の指定拡大や子どもの貧困問題について質問した。また、

障がい者自立支援協議会の質問については、困難事例の対応や基幹相談支援センターの設置等を協議し、適正な運営に努めるとの答弁があった。

深瀬裕彦議員は、放課後児童クラブの施設の活用、道の駅構想、給食センターの整備、介護予防などについて質問した。また、日常生活支援総合事業の質問については、総合事業移行後も、現在の利用者はサービスを受けられるとの答弁があった。

新風クラブ

市政課題への会派意見

誠和園の移転整備は民立民営がベターな選択である。

個人質問 和田勝美議員

昨年8月の豪雨による農地や農道、用水路の災害復旧工事の遅れを指摘し、今後の対応をただした。執行部は「土佐山地区では合計64件が未発注であるため、ここの9月から職員体制を強化しているが、さらに増員して、工事完了に向けて取り組んでいく」と表明した。

個人質問 平田文彦議員

地方創生に向けてスポーツツーリズムの推進を図るべきとの立場で本市の方針をただした。市長は「2020東京オリンピックの事前キャンプや、プロ野球の春・秋季キャンプなどの誘致を図るため、10月から商工観光部に参事級職員を配置する」との積極的姿勢を示した。

個人質問 清水おさむ議員

本年3月定例会の経済文教常任委員長報告でなされた、競輪事業における陸上競技場使用料の無料化提言への対応方針をただした。市長は「使用料の使途であるようまスタジアムの建設にかかる起債償還が終了することから、来年度からの減免を検討する」と明言した。

日本共産党

安保法案徹底審議求める意見書提出、中学校給食補正予算賛成

開会日に、安保関連法案の徹底審議と国会での採決見送りを求める意見書を市民クラブと共同提案し、岡田泰司議員が賛成討論を行ったが一票差で否決。

個人質問は浜口佳寿子、迫哲郎、下本文雄、細木良、はた愛、下元博司の6議員が登壇。市長の政治姿勢をただし、集団的自衛権容認の立場での改憲や、伊方原発再稼働容認の姿勢が鮮明に。多子世帯の高すぎる国保料引き下げや、子どもの医療費無料化拡充の要望には、あくまで国の責任との答弁に終始。超過達成した財政再建による財源は、行き過ぎた職員削減や市民負担の解消ではなく、新庁舎や東部ドームの建設、「桂浜」道の駅などの大型事業に注ぎ込む方針が示され、市民生活の実態に背を向ける態度が明確に。中学校給食実施に向けて、可能な学校での自校方式や地産地消推進など、

安心安全な給食実現を求めた。

特別支援学級の教員不足には県に早急な対応を要望し、支援員配置検討を約束。特定地域にしか周知しない市住「闇募集」中止を求めたが、生活保護率や低所得等の理由で継続に固執した。

公明党

安心で安全なまちづくりと人が輝く高知版地方創生に全力

山根堂宏議員は、マイナンバー制度に関する現時点での最大の問題は、国民理解が進んでいないことと指摘し、今後の広報活動および丁寧な対応と万全な事務管理を強調しました。

寺内憲資議員は、インバウンド観光にも寄与するクルーズ客船誘致に向けて、高知新港岸壁へのWiFi施設整備について、県市で連携して取り組むよう求めました。

高木妙議員は、農業委員会法等の改正や中学校給食の運営についてただしました。市長は、農業委員会の建議の在り方に言及するとともに、給食センターの給食調理業務の民間委託は有力な選択肢の一つとの考えを示しました。

西森美和議員は、過去2回の答弁を踏まえ、秦地区県有地周辺の浸水対策の進捗をただしました。市長は、南・東秦泉寺排水機場の能力向上をはじめ、今後は公共下水道事業として包括的に取り組む姿勢を示しました。

新こうち未来

個人質問には、戸田二郎議員、川村貞夫議員、福島明議員、浜口卓也議員が登壇

戸田二郎議員は、安倍総理の戦後70年談話を評価し、中国共産党への警戒を強める必要性を訴えた後、就学援助費の公平性や、朝倉夜間中学校と教育研究所との分離を強く求めた。川村貞夫議員からは、林業活性化や農業振興の観点からの質問があった。また、土佐弁を生かした地方創生や新図書館の運営に民間活力を導入する提案があった。福島明議員からは、移住・定住促進策として、趣味や仕事にも積極的なアクティブシニアと呼ばれる50〜60代の方々を都会から呼び込む提案があった。浜口卓也議員からは、公共施設マネジメントに関する来年度からの組織編成への提言と、来夏に仁淀川河口にて開催予定のサーフイン大会への支援を求める質問があった。

みどりの会

仕事師近森市議に陳情続々と

- ①日曜市の出店者の枠を拡大へ
- ②拉麺王国宣言の企画案が決定
- ③ふるさと納税昨年度比大幅増
- ④近森リハ病院前の公園を整備
- ⑤桂浜荘の赤字経営を改善指導
- ⑥藤並公園の藤棚生垣砂利整備
- ⑦入明駅前の欄干危険箇所修繕
- ⑧月ノ瀬橋北道路陥没箇所補修